

しんじょう さかた とざわ たちかわ
新庄酒田道路(戸沢～立川)

計画段階評価
第3回 説明資料

1. 計画段階評価の検討の流れ
2. 第2回意見聴取の結果
3. 対応方針（原案）の検討
4. 自治体への意見照会結果
5. 対応方針（案）のまとめ

令和3年2月12日
国土交通省 東北地方整備局

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-2. 前回(第2回)審議内容

■第32回社会資本整備審議会 道路分科会 東北地方小委員会の概要

実施日：令和2年10月23日(金)開催

- 主な議事：①地域からの意見聴取(第1回)の結果
 ②地域課題の再整理
 ③政策目標の設定
 ④対応方針(ルート帯案)の検討
 ⑤地域からの意見聴取(第2回)の方法

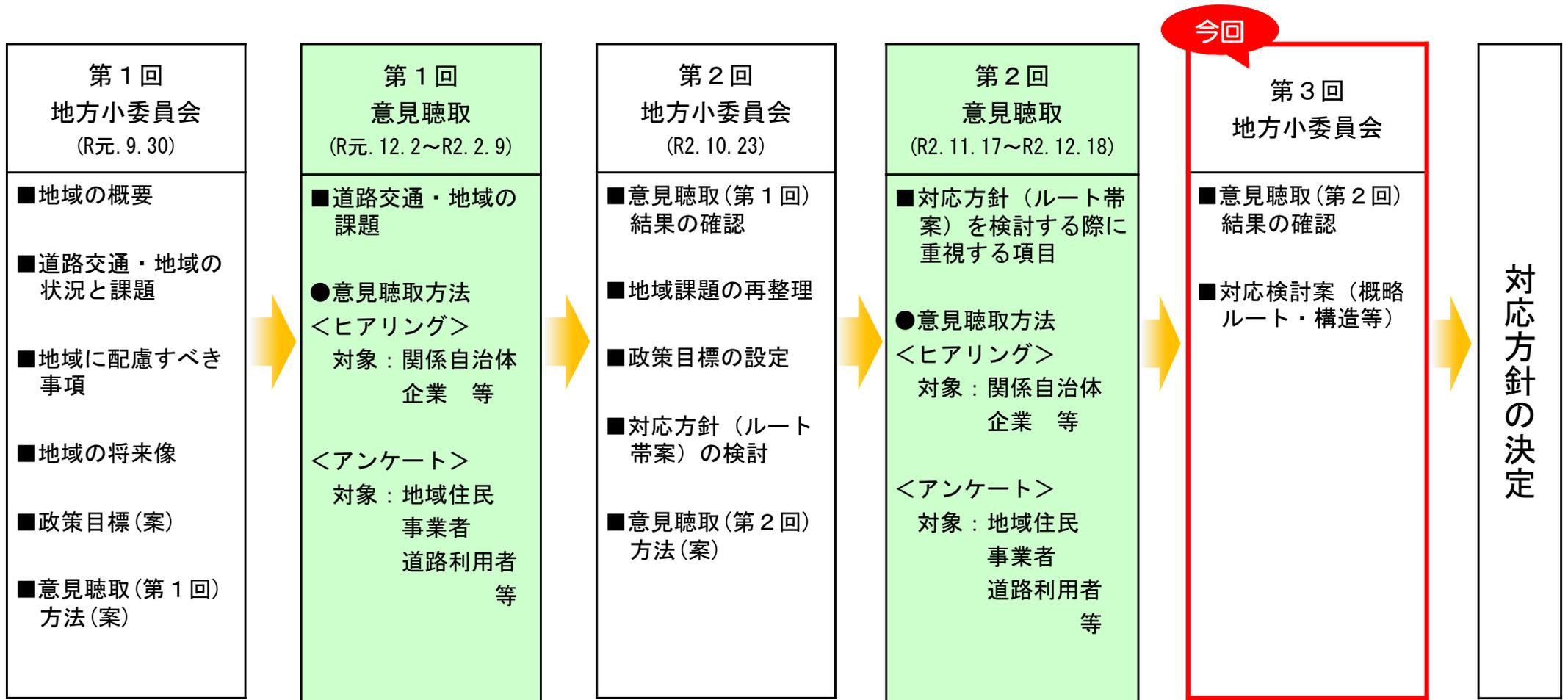
【表1】前回審議における主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> アンケートの比較案に関して、よりわかりやすくするため車線数などの説明を入れる工夫をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートチラシの比較案を示す部分に、車線数等の整備内容がわかるようなイメージ図を追加。(P7)
<ul style="list-style-type: none"> 世帯別の回収率を確認するため、回収方法を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査票に、世帯ごとに異なるナンバリングを施し、回答した世帯数を把握できる形式で調査を実施。(P7)

1-3. 今後の計画段階評価の進め方(案)

◆ 地域住民・事業者・道路利用者の意見を聞きながら、道路計画[概略ルート、構造等]について検討を行う。

計画段階評価



地方小委員会

2. 第2回意見聴取の結果

2-1. 第2回意見聴取の実施内容

◆ 地域の意見聴取(第2回)は、アンケート調査及びヒアリング調査を以下のとおり実施。

1. 意見聴取期間

◇令和2年11月17日～12月18日

2. アンケート調査票の回収状況

分類	回収方法	配布数※1	回収数	回収率
住民・道路利用者	郵送	18,031世帯 (36,062枚)	4,284世帯 (6,974枚)	23.8% (19.3%)
	留置き	—	755枚	—
	Web	—	644枚	—
	合計	—	8,373枚	—
事業者	合計	149枚	67枚	45.0%

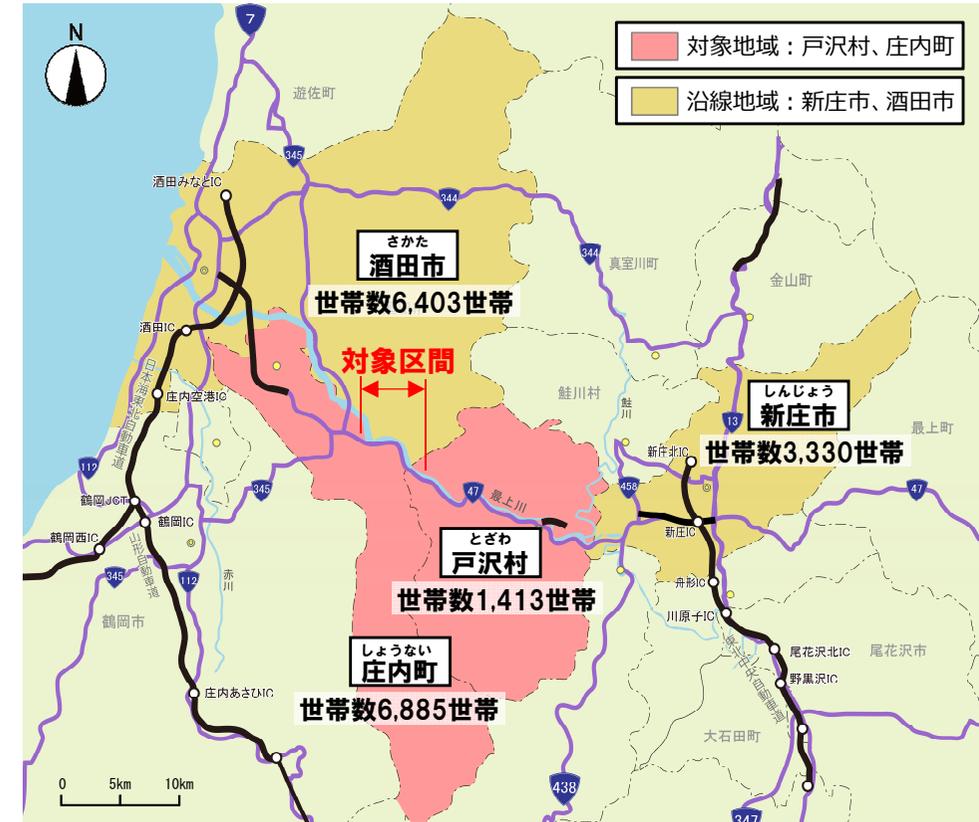
※1:住民アンケートの配布は、1世帯当たり回答ハガキを2枚同封。

3. ヒアリング調査の対象

関連団体ヒアリング調査：37社・団体（アンケート調査）

<ul style="list-style-type: none"> ・自治体（1市1町1村） ・県（1県 ※3部署） ・消防機関（2団体） ・医療機関（3団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察機関（2団体） ・トラック協会(1団体) ・製造業者（8社） ・物流業者（4社） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会（4団体） ・バス協会（1団体） ・バス事業者（3社） ・学校（3団体）
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<アンケート配布範囲>



2-2. 第2回意見聴取に対する広報の実施状況

- ①新聞広告：山形新聞、荘内日報にアンケートへの協力を呼びかける広告を掲載
- ②ホームページ：国土交通省 酒田河川国道事務所、新庄市、酒田市、戸沢村、庄内町のホームページにアンケート調査を掲載
- ③地域への情報提供：酒田河川国道事務所、県庁、市町村役場、道の駅に設けたアンケートブースにポスター掲示

【表1】地域の意見聴取内容

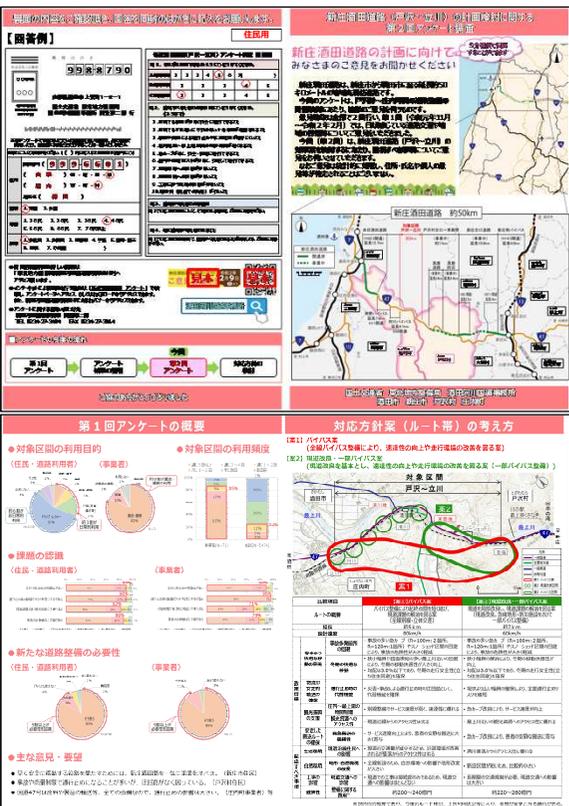
回答者属性(年齢、職業、性別、住所)

問1 国道47号の利用状況(目的、頻度、手段)

問2 対策案を検討する際に重視すべきと思われる項目について

問3 重視すべきと思われる理由について

問4 その他重視すべきと思われる項目について



【図1】アンケートチラシ



【図2】Webアンケート

【図3】新聞広告

【図4】ホームページ

＜戸沢村ホームページ＞

＜庄内町ホームページ＞

【写真1】アンケート留置状況



＜新庄市＞



＜酒田市＞

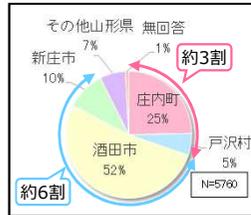
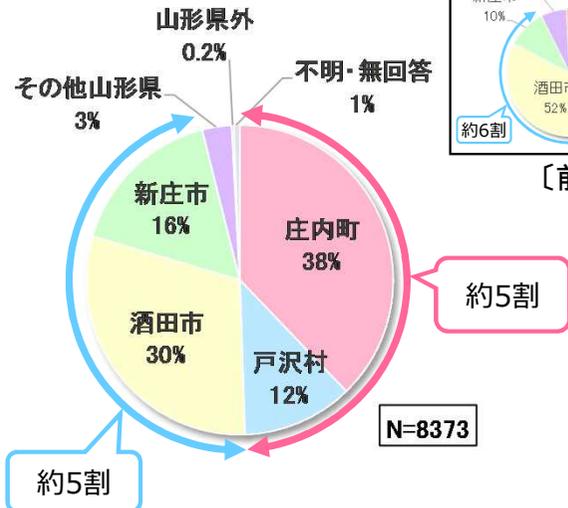
2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / 属性1

- ◆ 住民アンケートでは、庄内町・戸沢村で約5割、酒田市・新庄市で約5割を占め、対象市町村の配布戸数割合とほぼ同等の割合で回答を得ることができた。
- ◆ 事業者アンケートは、庄内町・戸沢村・酒田市・新庄市で約5割を占める。

あなたについてお聞かせください (住所)

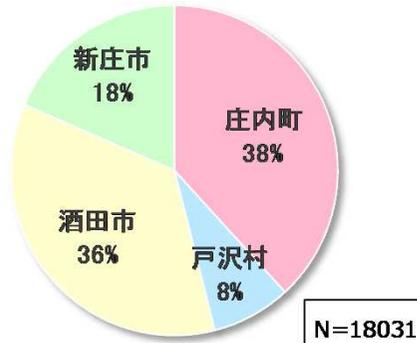
住民アンケート

【図1】回答者居住地分布



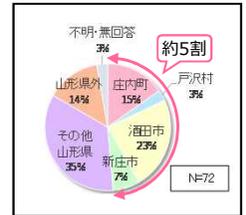
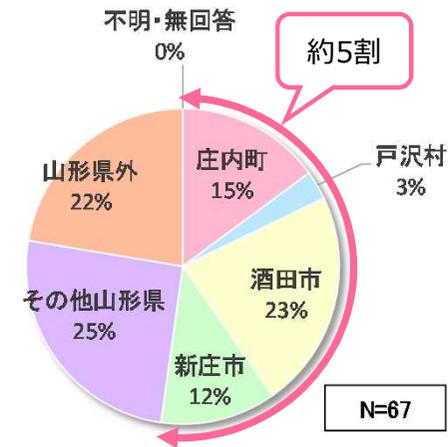
【前回】

【参考】市町別配布戸数の割合※



事業者アンケート

【図2】回答者所在地分布



【前回】

【表1】調査手法別回答数

市町村	回答数				構成割合
	郵送	留置	WEB	合計	
庄内町	2,849	115	200	3,164	37.8%
戸沢村	809	142	26	977	11.7%
酒田市	2,070	194	256	2,520	30.1%
新庄市	1,169	135	78	1,382	16.5%
その他山形県	46	143	70	259	3.1%
山形県外	4	1	14	19	0.2%
不明・無回答	27	25	0	52	0.6%
合計	6,974	755	644	8,373	-

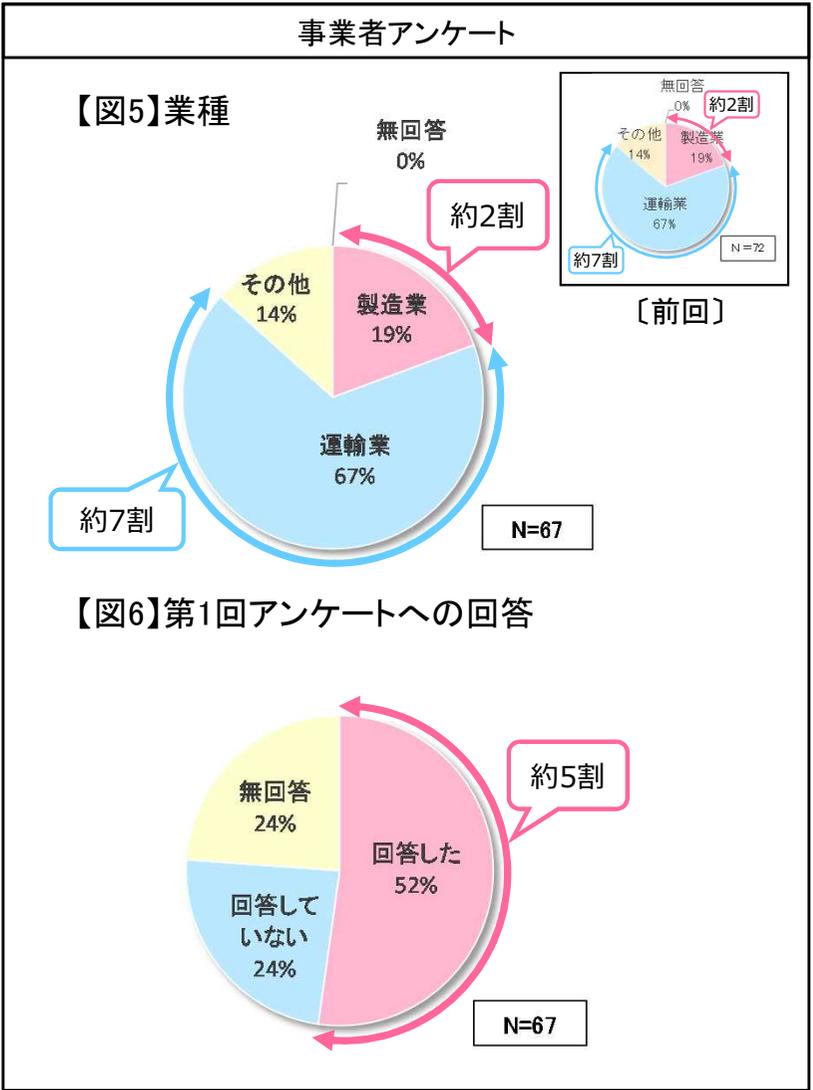
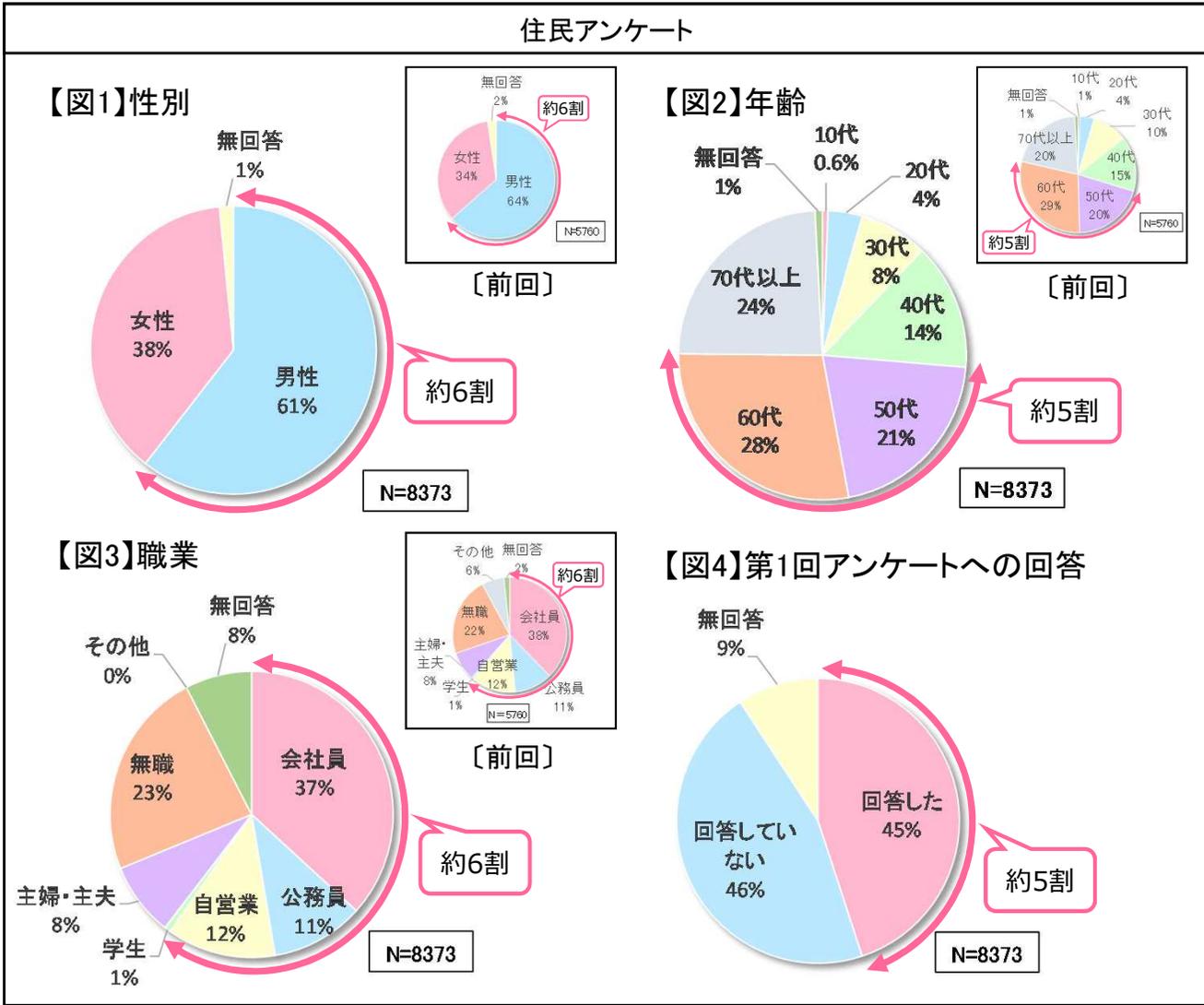
【表2】アンケート回収状況

市町村	配布数 (枚)	回収数 (枚)	構成割合
庄内町	21	10	14.9%
戸沢村	7	2	3.0%
酒田市	26	15	22.4%
新庄市	9	8	11.9%
その他山形県	51	17	25.4%
山形県外	35	15	22.4%
不明・無回答	0	0	0.0%
合計	149	67	-

2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / 属性2

- ◆ 住民アンケートの属性は、性別は男性が約6割、年齢構成は50代～60代が約5割、職業は就業者が約6割を占めた。
- ◆ 事業者アンケートの属性は、業種は「製造業」が約2割、「運輸業」が約7割を占めた。
- ◆ 第1回アンケートへ回答した方は、住民・事業者ともに約5割となった。

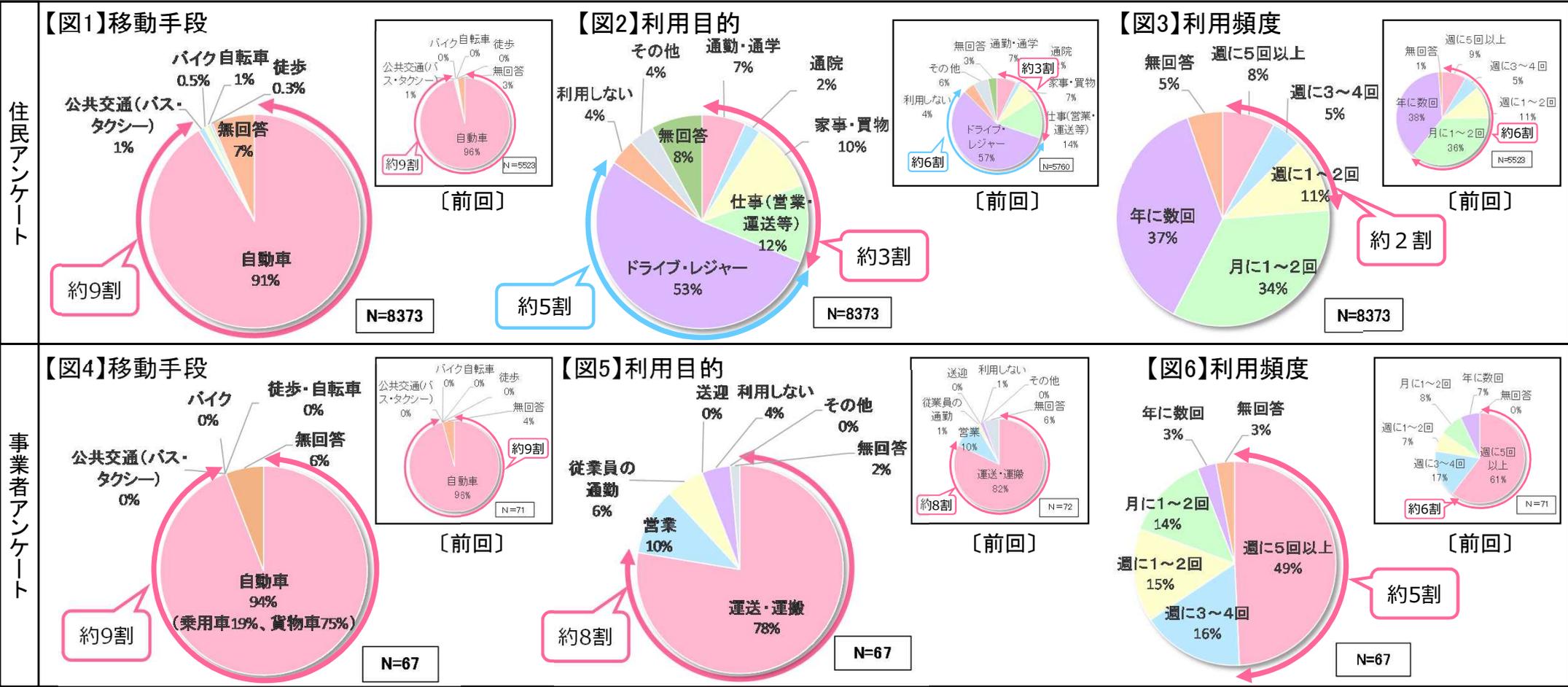
あなたについてお聞かせください（住民：性別、年齢、職業、第1回アンケートへの回答 事業者：業種、第1回アンケートへの回答）



2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / 利用状況

- ◆ 移動手段は住民・事業者アンケートとも自動車約9割を占める。
- ◆ 利用目的は、住民アンケートでは日常利用が約3割、非日常利用が約5割となった。事業者アンケートでは運送・運搬が約8割を占めた。
- ◆ 利用頻度は住民アンケートでは週に1~2回以上の利用が約2割、事業者アンケートでは週5回以上の利用が約5割を占めた。

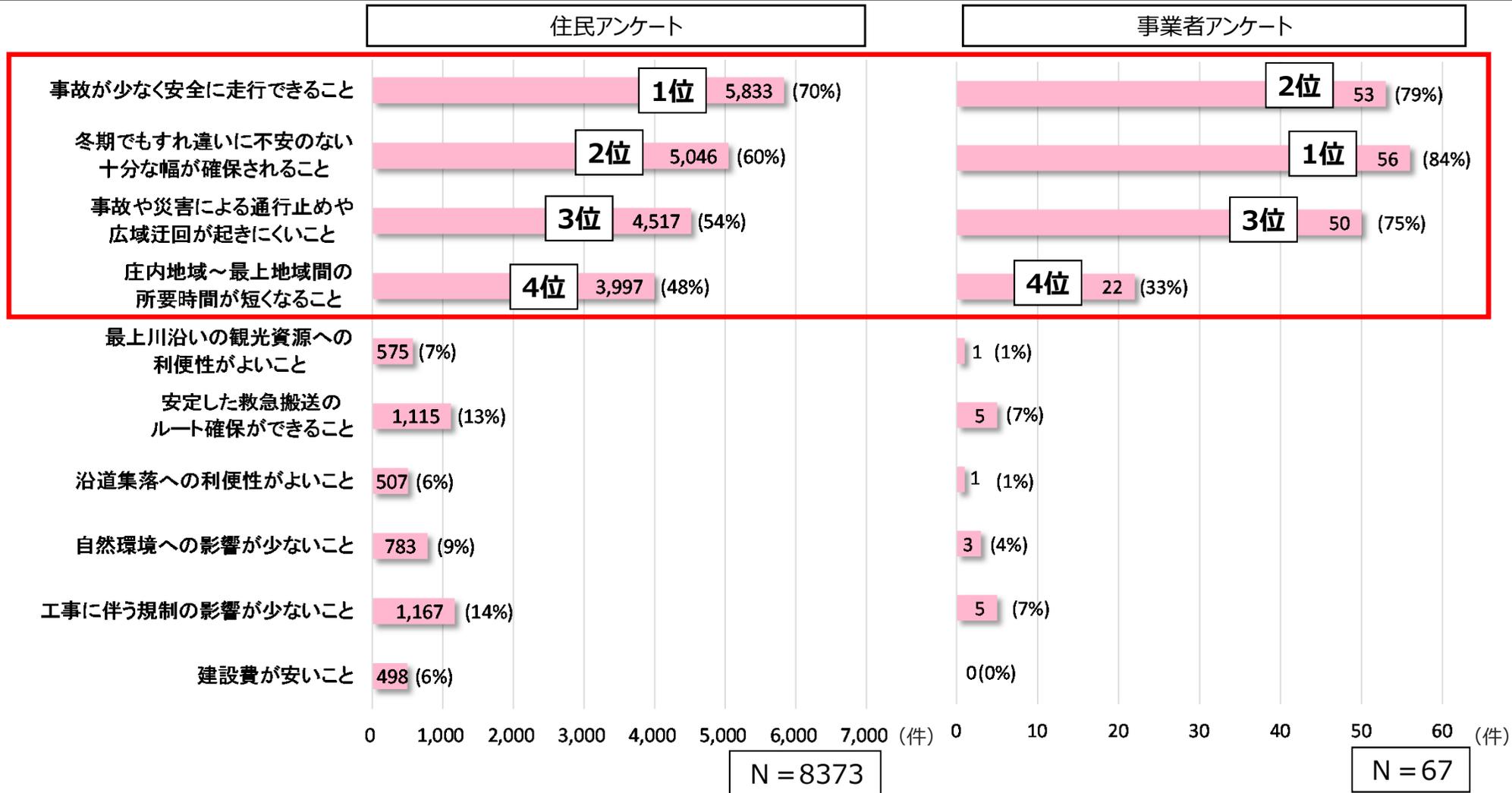
問1. 国道47号(検討区間)の道路利用について、お伺いします。



2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / 重視すべき項目

- ◆ 対策案を検討する際に特に重視すべき項目について、住民アンケートでは「事故が少なく安全に走行できること」が最も多く、次いで「冬期のすれ違い幅確保」、「通行止めや広域迂回が起きにくいこと」、「所要時間短縮」の順に多い結果となった。
- ◆ 事業者アンケートでは、「冬期のすれ違い幅確保」、「事故が少なく安全に走行できること」、「通行止めや広域迂回が起きにくいこと」の3項目を約8割が重視する結果となり、次いで「所要時間短縮」への意見が多かった。

問2. 対策案を検討する際に特に重視すべきと思われる項目を3つまで選んでください。



※ () は、回答者数に対する割合

2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / 重視すべき理由

- ◆ 重視すべき理由として、交通環境に関して、「道幅の狭さやカーブの多さによる冬期走行環境悪化」等について意見を頂いた。
- ◆ 物流に関して、「時間短縮の希望や通行止めの影響」等について意見を頂いた。
- ◆ 観光に関して、「所要時間削減の重要性」や「最上川沿いの観光資源活用」等について意見を頂いた。
- ◆ 救急搬送に関して、「救急搬送ルート確保の重要性」等について意見を頂いた。
- ◆ その他、「沿道集落の利便性確保」や「工事規制が物流に与える影響への懸念」等について意見を頂いた。

問3. 問2で○をつけた項目について、そう思われる理由について、ご自由にお書きください。

項目	主な意見
事故が少なく安全に走行できること 【3,810件】(住民3,770件、事業者40件)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を通して、道路、利用者、物流の安全を確保すべきと考える。【住民】 ・冬期に事故での通行止めが多いので、少なくとも安全に通行できるようにしてもらいたい。【住民】 ・日配業で毎日365日お得意様へお届けしています。毎日が安全、安心して通行できる道路が不可欠です。【事業者】
冬期でもすれ違いに不安のない十分な幅が確保されること 【3,490件】(住民3,446件、事業者44件)	<ul style="list-style-type: none"> ・道幅が狭い上にカーブが多く、冬は運転することにストレスを感じる。大型トラックとすれ違う際も恐怖感があり、冬期間はあまり通りたくない。【住民】 ・国道47号はカーブが多く、道幅も十分では無いのにトラックの往来もあり、一般ドライバーには難所です。冬場は滑り、霧も出る。安全性が1番大事だと思います。【住民】
事故や災害による通行止めや広域迂回が起きにくいこと 【3,101件】(住民3,060件、事業者41件)	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害で通行止めになれば大幅に迂回せざるをえず、不便に思う。太平洋側からの物流を活発にするためにも早期に整備してもらいたい。【住民】 ・冬期間の迂回は真室川(国道344号)、月山(国道112号)の2ルートとなるが、どちらも厳冬期は迂回も難しい。【住民】 ・食品、日用品等の集配送業務で使用しているので、安全に短時間で運行したい。通行止めになるのが一番困る。【事業者】
庄内地域～最上地域間の所要時間が短くなること 【2,684件】(住民2,665件、事業者19件)	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内⇄最上の所要時間の削減は、観光にも良い影響が出ると考えられるから。【住民】 ・雪国にとって安全に不安なく走行できる事が重要。時間短縮できれば心の余裕ができ安全運転を心がけられる。【住民】 ・物流での利用が大半を占めているようなので、時間短縮は重要。【住民】
最上川沿いの観光資源への利便性が良いこと 【330件】(住民330件、事業者0件)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季間の通行に不安がある。素晴らしい最上川沿いの観光資源の活用を図るべき。【住民】
安定した救急搬送のルート確保ができること 【728件】(住民723件、事業者5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・物流や救急搬送において、通行止め時の影響が少ない方がいいと思う。東日本大震災の時は、道路が命綱そのものだった。【住民】 ・最上地域の医療が弱体化しているので、救急搬送のルートは生命の危機に関わる重要な課題と思う。【住民】
沿道集落への利便性がよいこと 【285件】(住民284件、事業者1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・自営業で商売しているが、若者が住みにくくなると閉業せざるをえない。過疎地といわれるところは、逆に住民が買い物をしやすく、住みよい対策が必要であると思う。ぜひ、清川に道路の降り口を取り付けてほしい。【住民】 ・車社会で過疎化に拍車がかかると、若者が住まなくなるので、沿道集落の利便性を確保すべきである。最上川・羽黒山ルートは今でも多くの観光客が通るので、インターを立谷沢入り口(清川)に是非つけてほしい。【住民】
自然環境への影響が少ないこと 【471件】(住民469件、事業者2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・最上峡の自然環境や景観は山形県の貴重な観光資源であるので、その保護も忘れてはならない要件だと考えます。【住民】 ・自然に恵まれ景観のよい地域なので、自然が壊されたり、景観が壊されたりしないような道路整備であってほしい。【住民】
工事に伴う規制の影響が少ないこと 【783件】(住民779件、事業者4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事に伴う交通規制による救急搬送等に支障があっては困る。【住民】 ・冬場の通行止めや工事規制の影響は物流の輸送に大きな影響がある。【住民】 ・現在も工事の規制が多く、通勤時間が不規則で困っています。現道にできるだけ手を付けない工事で、できるだけ早い開通を望みます。【住民】
建設費が安いこと 【323件】(住民323件、事業者0件)	<ul style="list-style-type: none"> ・コストがかかりすぎるのはよくない。【住民】

2-3. 第2回意見聴取の結果(アンケート調査) / その他の意見

- ◆ 主な意見として、バイパス整備や現道拡幅・一部バイパス整備の「整備方針に対する意見」が多く寄せられている。
- ◆ その他道路構造について、「中間IC整備による沿道観光地や集落へのアクセス性確保を重視する意見」も寄せられている。

問4. 問2で○をつけた項目以外で、重視すべきと思われることがありましたら、ご自由にお書きください。

項目	主な意見
整備方針に関する意見 【997件】(住民988件、事業者9件)	<p>【案①バイパス案に肯定的な意見】 578件 (住民573件、事業者5件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下りながらの急カーブが多数有り、初心者や冬道は事故のリスクが高い。道幅を広げるだけでは解決しないと思うので、バイパスで道幅が広く急カーブの無い安全に走行できる道路をお願いします。【住民】 ・現在も片側通行の交通規制が多く時間が掛かるので、工事中は現道の規制を少なくして欲しい。【住民】 ・トラックだと迂回する道路が無い為国道47号以外にもトラックで通れる道がほしい。【事業者】 <p>【案②現道改良・一部バイパス案に肯定的な意見】 210件 (住民210件、事業者0件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源との連携や沿線住民の利便性も重要と考えます。【住民】 ・自然環境への影響は少ない方がいい。【住民】 <p>【案①②双方に肯定的な意見】 472件 (住民466件、事業者6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通車両の多い道路であるので、大型トラック同士が余裕をもって通行できる幅にすること。【住民】 ・幅の広い直線道路があると運送が楽になるし交通事故の心配も少なくなる。トンネルを通して頂きたい。【事業者】
早期整備・全線整備に関する意見 【447件】(住民446件、事業者1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日も早い完成を要望します。庄内と内陸、他県との経済・観光交流にはとても大切な道路だと思います。【住民】 ・現在、整備を進めている「高屋道路」との連続性が欠落している計画であり、今後の経済状況などから道路ネットワークとして禍根を残す可能性もある。このことから、「高屋道路」終点まで連結した計画に見直すべきである。【住民】
道路構造・施設・設備に関する意見 【571件】(住民564件、事業者7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・カーブが少ない、安心して走行できる道にして欲しい。【住民】 ・地元接続や災害時のバイパス機能を持たせるためのインターチェンジを中間に作った方がいいと思う。【住民】 ・新しい道路に分岐点を設けて、羽黒山や鶴岡市へのアクセスしやすい道を作ること、観光業と沿道集落への利便性の両方を確保したほうが、より様々な事業の収益に繋がると思います！【住民】 ・昨今の雨量増加及び水害に伴う、公道の水没について考慮していただきたく思います。【住民】
維持管理に関する意見 【113件】(住民110件、事業者3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧道となる道路のメンテナンスを怠らない。【住民】 ・冬期の凍結対策を十分に行なってほしい。【事業者】
整備費用に関する意見 【37件】(住民37件、事業者0件)	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄な税金投入をされないことを願います。【住民】
当該区間及び国道47号の重要性に言及した意見 【73件】(住民72件、事業者1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・山形自動車道の月山越え区間が建設時期未定である現状において、新庄酒田道路の整備は、庄内・最上の往来だけでなく、南東北における日本海沿岸部、内陸部、太平洋沿岸部の往来にあたり、非常に重要だと思います。【住民】 ・縦の日本の交通網は、東北道、東北中央道、日本海東北自動車道と整備されてきているが、縦の主要道の一つが使えなくなった場合に対応できるように、横方向の整備を急ぐべきと考える。【住民】
道路整備に否定的な意見 【6件】(住民6件、事業者0件)	<ul style="list-style-type: none"> ・便利だからといって、道路は作ればいいとは思わない。【住民】
その他(現道課題への意見、要望など) 【872件】(住民865件、事業者7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの案になるにしても、適宜情報を発信していただきたく思います。【住民】 ・無料高速をどんどん作って欲しい。【住民】

2-4. 第2回意見聴取の結果(企業・関係機関ヒアリング) / 重視すべき理由

- ◆ 重視すべき項目として、「安全な走行」「冬期のすれ違い幅の確保」「通行止めが起きにくいこと」「庄内～最上間の時間短縮」、「工事に伴う規制の影響が少ないこと」への意見が多く寄せられた。
- ◆ 交通環境に関して、「急カーブや狭幅員の改善による安全性向上」について意見を頂いた。
- ◆ 物流に関して、「通行止め時の企業活動への影響」や「時間短縮による安全性、運行効率の向上」について意見を頂いた。
- ◆ 観光に関して、「時間短縮による周遊範囲の拡大」や「周遊観光における沿線観光地の重要性」について意見を頂いた。
- ◆ 救急搬送に関して、「安定した救急搬送ルート確保の重要性」や「通行止め時の救急搬送への影響」について意見を頂いた。

問. 対策案を検討する際に重視すべきと思われる項目とその理由について教えてください。

項目	各項目を重視する理由など
事故が少なく安全に走行できること 【25団体】	・拡幅や急カーブ・交差点の解消、自動車専用道路区間の利用により、一段と安全性が向上し、 ドライバーへの負担も少なくなる 。【製造業者】 ・安全な交通路が一番大事であることから、急カーブや見通しが悪い箇所を改善してほしい。中央分離帯があるのが望ましいが、不可であればワイヤーロープ等により安全な通行を確保してほしい。【警察】
冬期でもすれ違いに不安のない十分な幅が確保されること 【26団体】	・ 観光客 がレンタカー等で移動する場合、不慣れかつ冬期の運転は不安があるため、 十分な道幅が確保されると安心感につながる 。【観光協会】 ・狭幅員とカーブが連続しているため、拡幅されれば 大型トラックの相互のすれ違いに余裕ができ、安全性向上、効率化につながる 。【物流業者】 ・現在の道路幅より広く、トンネルなどで冬期でも安全な路面を期待する。【バス事業者】
事故や災害による通行止めや広域迂回が起きにくいこと 【28団体】	・事故や災害等による 通行止めの発生 は、原料及び製品の物流が止まり、 工場の操業停止に直結 する。【製造業者】 ・通行止め時は庄内方面への救急搬送ができなくなる。 バイパスができれば、通行止め時も迂回が可能 となり、時間のロスが少なくなる。【消防機関】 ・観光客が旅行する場合、通行止めや広域迂回はスケジュールの大幅な変更が必要になってしまうため。【観光協会】
庄内地域～最上地域間の所要時間が短くなること 【24団体】	・時間短縮によって、最上・庄内地域における、 新たな周遊範囲の拡大 やそれに伴う 周辺施設への立ち寄り機会増加が期待 される。【観光協会】 ・酒田～新庄地域のみならず、山形、上山、米沢へのリードタイム短縮が図られ、 安全性、運行効率の向上が期待 される。【物流業者】 ・緊急を要する 搬送時の時間短縮 につながる。【医療機関】
最上川沿いの観光資源への利便性が良いこと 【11団体】	・道の駅しようない、白糸の滝ドライブインなどへのアクセス性が低下しないようなICとしていただきたい。【観光協会】 ・集客力がある 最上川舟下りは、最上地域・庄内地域の周遊観光にとって重要 である。【観光協会】
安定した救急搬送のルート確保ができること 【9団体】	・最上地域の医療機関で対応できない患者は、日本海病院への搬送を行う場合があるため、安定したルートの確保をしてほしい。【医療機関】 ・ 傷病者の負担の軽減につながる ため。【消防機関】
沿道集落への利便性がよいこと 【4団体】	・立谷沢地区や、鶴岡の山岳地域で 災害が発生した際に有効に使えるような道路 が望ましい。【自治体】 ・ 退院後の患者への訪問 があるため。【医療機関】
自然環境への影響が少ないこと 【6団体】	・最上峡の景色は観光資源となっており、 景観が損なわれることは観光資源としての魅力が低下 してしまうため。【観光協会】 ・環境保護の観点から、自然環境への影響は最小限にとどまることが望ましい。移動快適性が向上すれば、排出ガスの削減も期待できる。【自治体】
工事に伴う規制の影響が少ないこと 【16団体】	・規制に伴う渋滞は、観光バス等に遅延を強いることとなり、 行程変更による沿線観光施設の立ち寄り機会損失につながる 。【観光協会】 ・本県内陸地域から酒田港へのコンテナ貨物の輸送にあたっては、大部分の荷主が国道47号を利用しており、 案②現道改良・一部バイパス案で長期間の交通規制がなされると、工事期間中の酒田港へのアクセスがますます悪化し、他港利用へシフトされる恐れがある 。【自治体】
建設費が安いこと 【5団体】	・当市に限らず各自治体の財源は厳しい状況であり、事業負担金が少しでも安くなることは望ましい。【自治体】

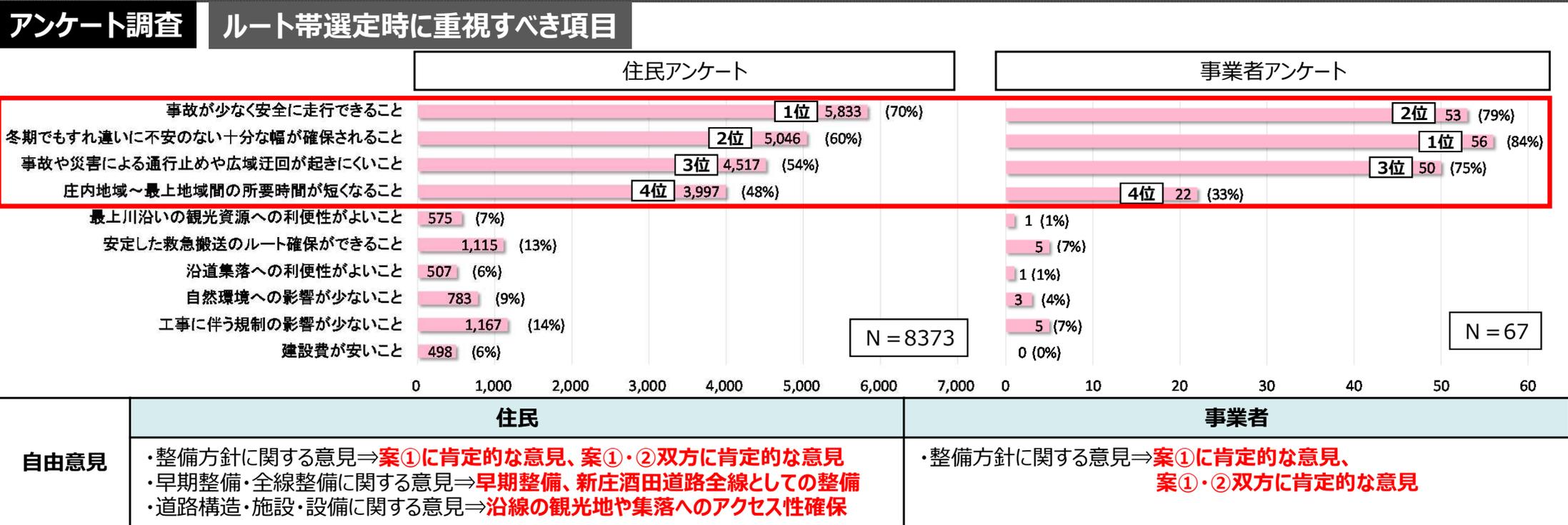
- ◆ 道路構造・施設・設備などに関する意見が見られ、「狭小幅員や急カーブの解消を要望する意見」や、冬期走行環境や通行止めの観点から、「トンネル整備を要望する意見」が挙げられた。
- ◆ また、周遊観光の利便性や観光誘客、地域防災等の観点から、「中間IC設置を要望する意見」が多く挙げられたほか、アクセス利便性や救急搬送の観点から、「国道47号に近い位置へのIC設置を要望する意見」も見られた。

問. その他、整備方針を検討する上で配慮すべき項目等あれば教えてください。

項目	各項目を重視する理由や要望など
道路構造・施設・設備などに関する意見 【27団体】	<p>【道路構造、道路線形に関する要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICと現道をつなぐランプ部について、緩やかなカーブとしてもらえると、木質チップを運搬する車両などの大型車両が走行しやすい。【自治体】 ・最上川沿いの道路はカーブが多いため、直線的な道路でお願いいたします。【物流業者】 ・幅員が狭いことで、対向車線へのはみだしや、路外逸脱の事故発生が予想されるので、十分な幅員を確保してほしい。【警察機関】 <p>【トンネル整備への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル部分が長ければ長いほど、霪や冬期の豪雪、地吹雪への対策になるため、極力トンネルでの整備を希望する。【自治体】 ・草薙～清川間は風が強く、凍結や地吹雪・吹き溜まりと危険箇所が多いため、これらの影響を受けずに済む、トンネル整備を希望する。【自治体】 ・通行止めが発生すると企業活動や観光面で影響が大きいので、トンネルでのバイパス化を希望する。【自治体】 <p>【中間IC設置に関する要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期走行環境の観点から、極力トンネルでの整備を希望する。一方、過疎化が進む中、外からの誘客が重要になってくるため、庄内町に立ち寄ってもらえるよう、清川地区にアクセスできるICを設置していただきたい。【自治体】 ・できれば、羽黒山神社、北月山荘などの観光ルートから、清川IC（県道45号）への接続ICの設置を希望する。【バス事業者】 ・地方への観光誘客の基本は高規格道路である。庄内町の観光資源は立谷川沿いに分布しており、これらへの誘客を図る上で、清川地域へのICの設置が必須だと考える。【観光協会】 ・案①バイパス案においては、清川橋とつながる中間ICがあると利便性が向上する。高規格道路として早期開通をお願いいたします。【物流業者】 ・国道47号が冠水した場合、清川地域の集落が孤立してしまう可能性があり、影響が大きい。案①バイパス案となった場合、清川地区に中間ICがあれば、国道47号が冠水した際も、迅速な救援・救助活動も期待できる。【自治体】 <p>【ICのアクセス利便性に関する要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降りた後にすぐに大きな国道（国道47号）に入れる設置位置に配慮してもらえればありがたいと思います。【製造業者】 ・救急患者の搬送を考えた場合、主要道路に接したICであるべき。【医療機関】 ・国道47号とバイパス区間の乗り降りがスムーズにできるよう、ICは国道47号直近に設置した方が良いと考える。【警察】 ・ICの設置位置については、幹線道路への近さ、トイレ、休憩地に近いかどうかを配慮いただきたい。【バス事業者】 ・観光面では、最上川舟下りや旅館などがある、草薙へのアクセス性を重視していただきたい。【観光協会】 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IC付近には、景勝地や観光地への案内看板の設置をお願いします。【観光協会】

2-5. 第2回意見聴取の結果とりまとめ

- ◆ ルート帯選定にあたっては、「事故多発箇所回避」、「冬期の快適な移動」、「通行止め時の代替機能」、「庄内～最上間の時間短縮」が重視されている。
- ◆ 計画検討にあたっては、「沿線観光資源及び沿道集落へのアクセス性確保」、「工事に伴う規制の影響が少ないこと」、「冬期の安全性確保に配慮した道路構造」、「早期整備」への配慮が求められている。



企業・関係機関ヒアリング

計画検討にあたり配慮すべき項目

・概ねアンケート調査と同じ視点の意見が多いが、加えて以下のような意見も見られた。

■ **工事に伴う規制の影響が少ないこと**
 ・規制に伴う渋滞は、**行程変更による沿線観光施設の立ち寄り機会損失につながる**。【観光協会】
 ・**長期間の交通規制がなされると**、工事期間中の酒田港へのアクセスがますます悪化し、**他港利用へシフトされる恐れがある**。【自治体】

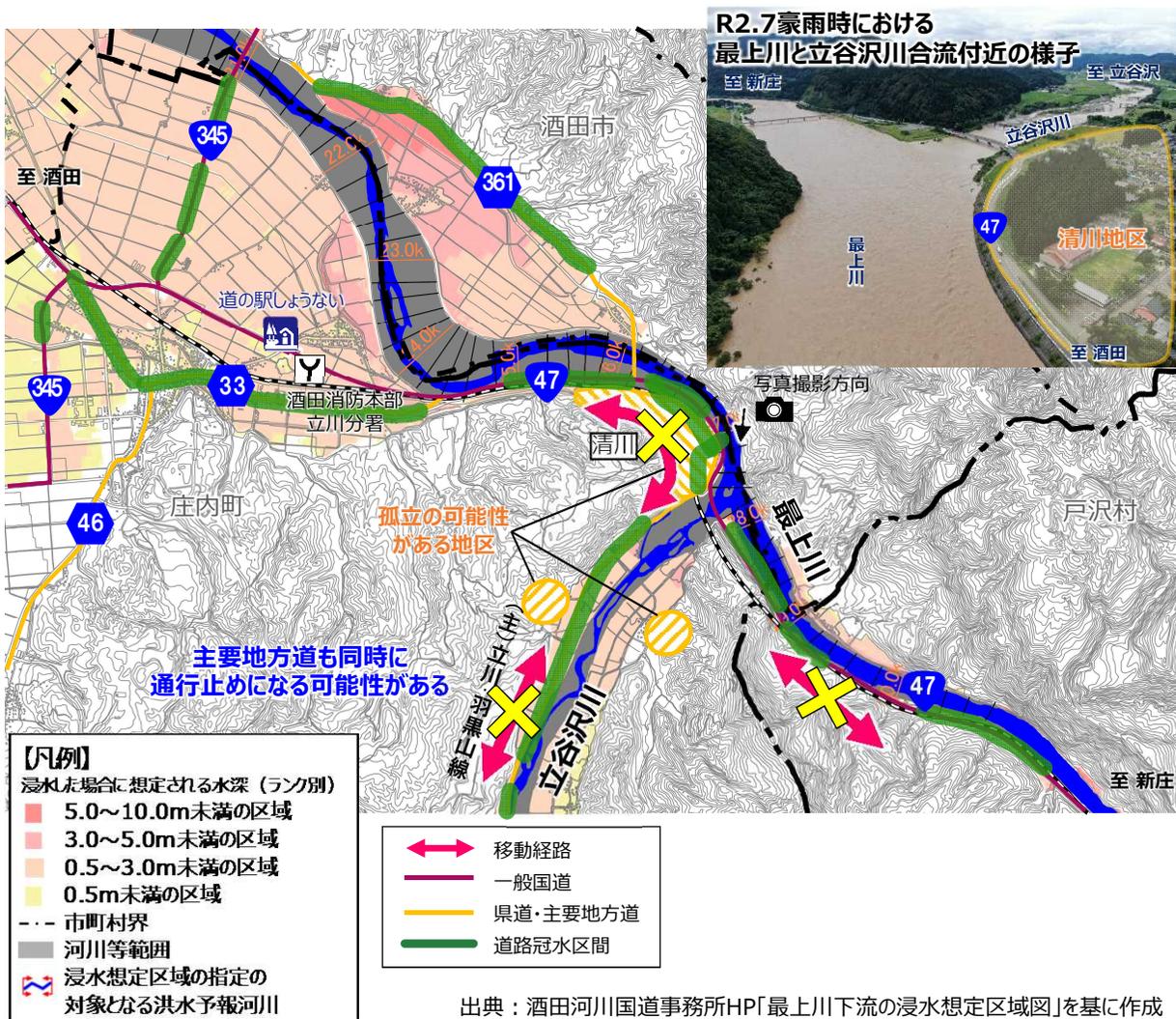
■ **沿線観光資源及び沿道集落へのアクセス性確保**
 ・庄内町に立ち寄ってもらえるよう、**清川地区にアクセスできるICを設置していただきたい**。【自治体】
 ・清川地区に**中間ICがあれば**、**国道47号が冠水した際も**、迅速な救援・救助活動も期待できる。【自治体】

■ **冬期の安全性確保のためのトンネル整備**
 ・トンネル部分が長ければ長いほど、**霏や冬期の豪雪、地吹雪への対策になるため**、**極力トンネルでの整備を希望**する。【自治体】

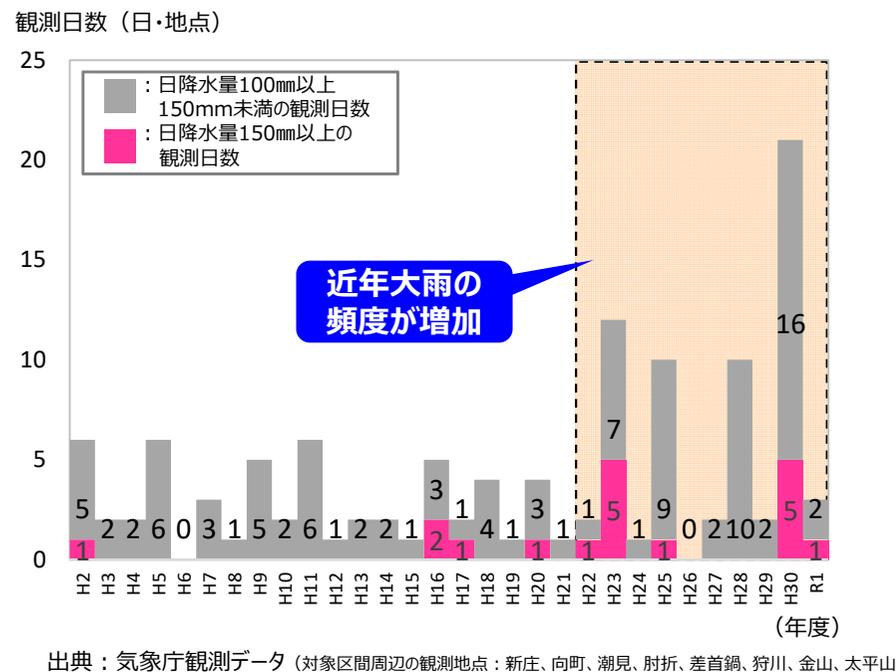
2-6.意見聴取を踏まえた課題の再整理(防災)

- ◆ 意見聴取では、従来の「交通環境」、「物流・産業」、「観光」、「医療」の視点に加えて、地域防災に関する意見が見られた。
- ◆ 庄内町清川地区の一部は、最上川及び立谷沢川がはん濫した場合の浸水想定区域に含まれている。
- ◆ 大雨によって国道47号が冠水した場合、主要地方道立川・羽黒山線も同時に冠水し、清川地区が孤立する可能性があり、迅速な救援・復旧活動のために、周辺とのアクセス性を確保できる計画とする必要がある。

【図1】対象区間周辺の道路冠水区間



【図2】対象区間周辺における日降水量100mm以上の観測日数



【地域の声】
 (第2回意見聴取結果より)

- ・ **国道47号が冠水した場合、清川地域の集落が孤立してしまう可能性**があり、影響が大きい。
- ・ 案①バイパス案となった場合、清川地区に**中間ICがあれば、国道47号が冠水した際も、迅速な救援・救助活動も期待**できる。【自治体】

3. 対応方針(原案)の検討

3-1. ルート帯案の検討(政策目標)

- ◆ 当該地域の道路交通状況や、地域の課題等を踏まえて政策目標を設定し、これを達成するための機能を有する対策案を複数設定。
- ◆ 対策案を検討する上では、沿線住民の生活環境および土地利用や自然環境、周辺施設への影響、コストなどに配慮。

○当該地域の政策目標

地域・道路の状況と課題

地域の将来像

住民や企業等への
意見聴取結果



政策目標

以下の項目を目的に、安全かつ快適な移動の実現を図ると共に、物流、観光振興、救急搬送を支援する道路ネットワークの確保

- 安全かつ快適な移動の実現
- 物流の安定的輸送の確保
- 観光振興の支援
- 安定した搬送ルート of 確保

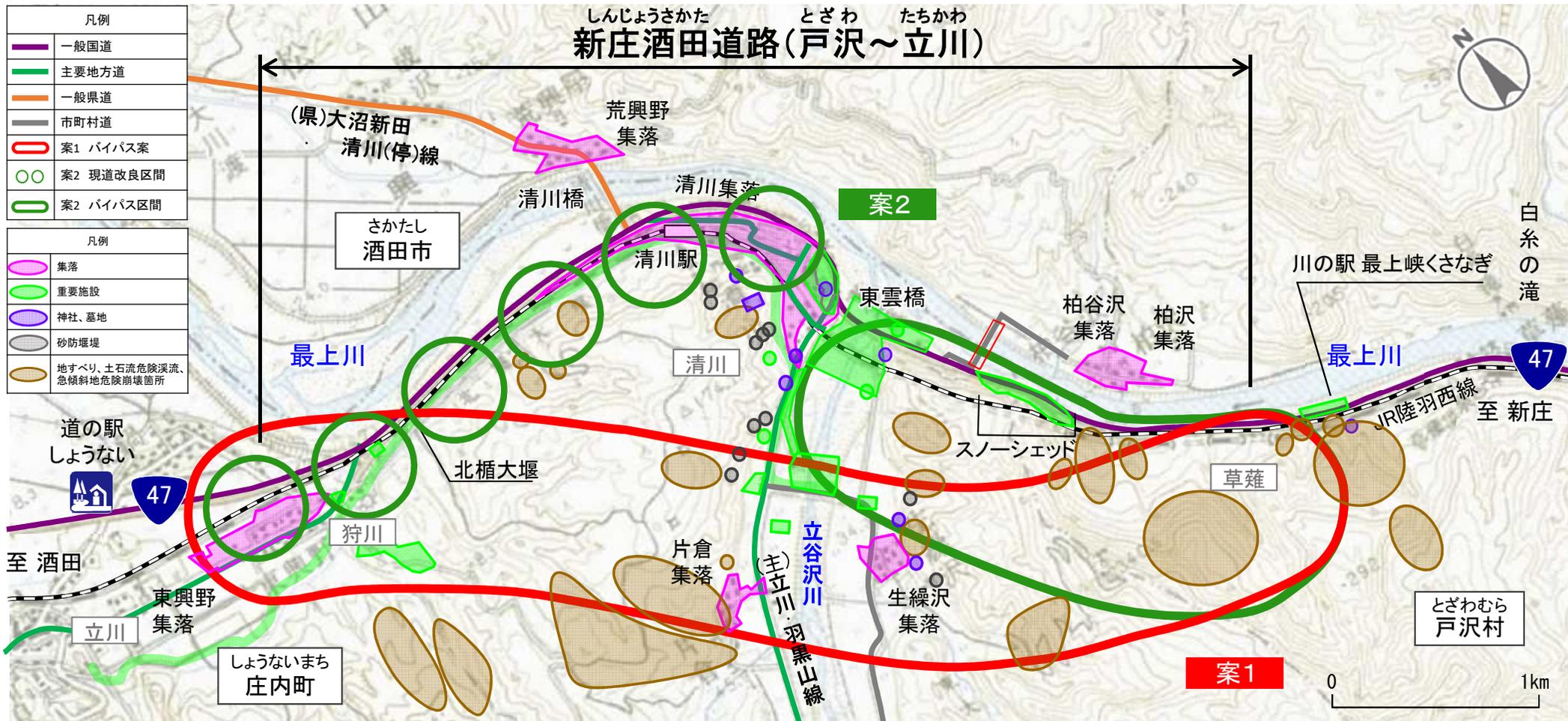
○対策案を検討する上での配慮事項

- 生活環境
 - 現道沿線住民への影響
- 自然環境
 - 地形・自然環境の改変
- 工事の影響
 - 現道交通への影響
- 経済性
 - 整備に関する費用

3-1. ルート帯案の検討(対策案)

◆ 政策目標を達成するための対策案について、主要なコントロールポイントに配慮し2案を設定。

- 【案①】バイパス案：バイパス整備により起終点間を短く結び、現道課題の解消を図る案（全線別線・立体交差）
- 【案②】現道改良・一部バイパス案：現道を局部改良し、現道課題の解消を図る案（現道改良、急峻地形・防災施設を避けて一部バイパス整備）



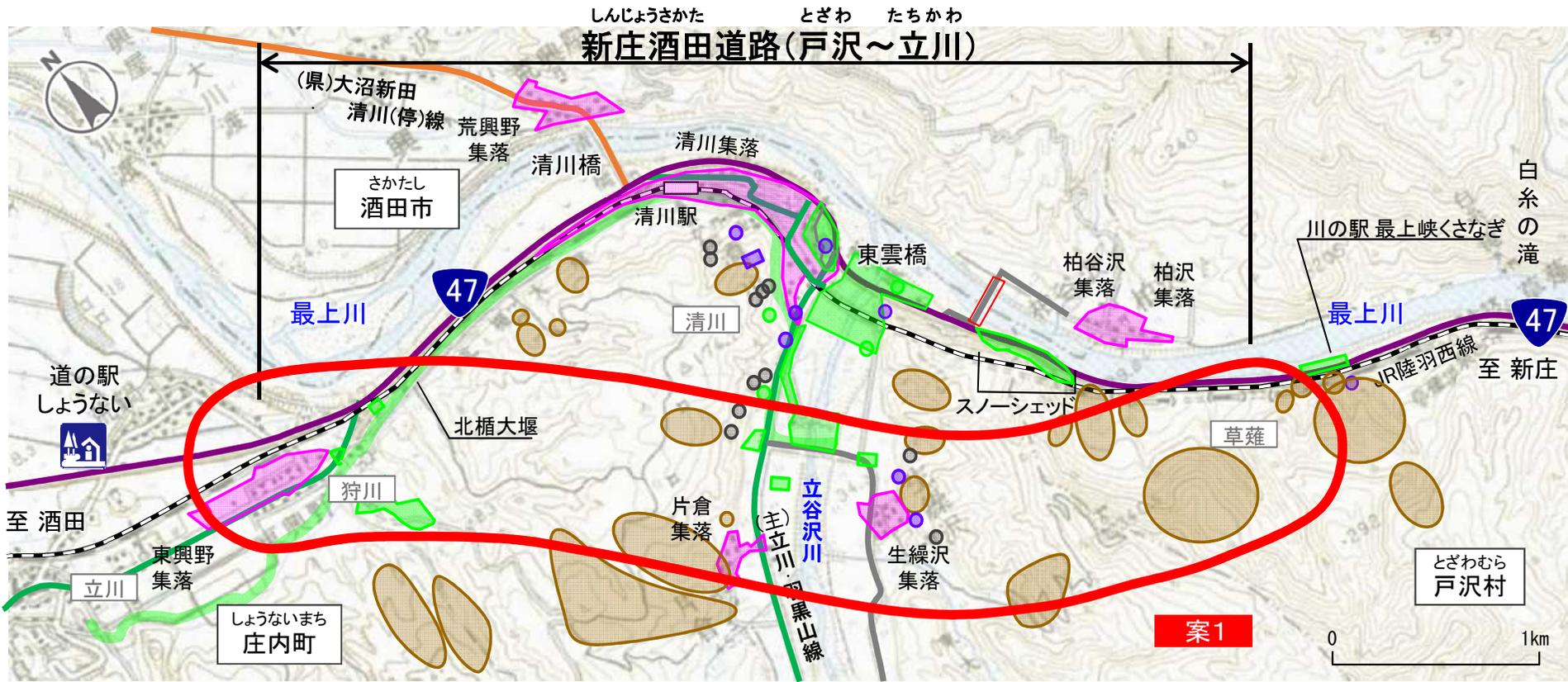
3-1. ルート帯案の検討(複数案の比較・評価)

- ◆ 地域の意見聴取では、重視すべき項目として「事故多発箇所の回避」「冬期の快適な移動」「通行止め時の代替機能」「庄内～最上間の時間短縮」への意見が多く寄せられた。
- ◆ 「事故多発箇所の回避」「冬期の快適な移動」は案①・②共に優れ、「通行止め時の代替機能」「庄内～最上間の時間短縮」は案①が優れている。

比較項目		【案①】バイパス案	【案②】現道改良・一部バイパス案	
ルートの概要		バイパス整備により起終点間を短く結び、現道課題の解消を図る案 (全線別線・立体交差)	現道を局部改良し、現道課題の解消を図る案 (現道改良。急峻地形・防災施設を避けて一部バイパス整備)	
整備イメージ	現道			
	現道改良区間			
	バイパス区間			
延長		約5 km	約7 km	
設計速度		80km/h	60km/h	
政策目標	安全かつ快適な移動の実現	事故多発箇所の回避	◎ ・事故の多い急カーブ (R=100m: 2箇所, R=120m: 1箇所) やスノーシェッド区間の回避により、事故の危険性が大きく軽減	◎ ・事故の多い急カーブ (R=100m: 2箇所, R=120m: 1箇所) やスノーシェッド区間の回避により、事故の危険性が大きく軽減
		冬期の快適な移動	◎ ・狭小幅員や路面凍結の多い最上川沿いの回避により、冬期の移動快適性が大きく向上 ◎ ・冬期の走行安全性(立ち往生回避)を確保	◎ ・狭小幅員の解消により、冬期の移動快適性が向上 ◎ ・冬期の走行安全性(立ち往生回避)を確保
	物流の安定的輸送の確保	◎ ・災害・事故による通行止め時の迂回路として、代替機能を確保	○ ・現状より広い幅員の確保により、全面通行止めリスクを緩和	
	観光振興の支援	庄内～最上間の時間短縮	◎ ・別線整備でサービス速度が高く、速達性に優れる	○ ・急カーブ改良により、サービス速度が向上
		観光資源へのアクセス性	△ ・現道沿線からのアクセス性は劣る	◎ ・最上川沿いの観光資源へのアクセス性に優れる
安定した搬送ルートの確保	救急搬送の信頼性	◎ ・サービス速度向上により、患者の安静搬送に大きく寄与	◎ ・急カーブ改良により、患者の安静搬送に寄与	
配慮すべき事項	生活環境	現道沿線住民への影響	○ ・現道の交通量が減少するため、沿道環境が改善される ○ ・集落からのアクセス性は劣る	◎ ・清川集落からのアクセス性に優れる
	自然環境	地形・自然環境の改変	△ ・全線新設のため、自然環境への影響や地形改変が大きい	○ ・新設区間が短いため、自然環境への影響や地形改変が比較的小さい
	工事の影響	現道交通への影響	○ ・現道での工事は接続部のみであるため、現道交通への影響はほとんどない	△ ・長期間の交通規制が必要、現道交通への影響は大きい
	経済性	整備に関する費用*	約200～240億円	約220～260億円

意見聴取で多く意見が寄せられた項目

◎ : 改善する・満足する, ○ : 一部改善する・やや満足する, △ : 改善しない・満足しない ※現時点の概算であり、今後のルート検討、土地利用状況等により、金額が変更となる場合がある。



沿線住民・沿線企業への意見聴取、企業・団体等へのヒアリングの主な意見

- 【ルート帯案について】
- アンケート調査及びヒアリング調査では、政策目標のうち「事故多発箇所の回避」、「冬期の快適な移動」、「通行止め時の代替機能」、「庄内～最上間の時間短縮」に関する意見が多く寄せられた。



政策目標の達成見込み及びルート帯選定にあたって重視すべき項目について、意見聴取結果を踏まえて評価

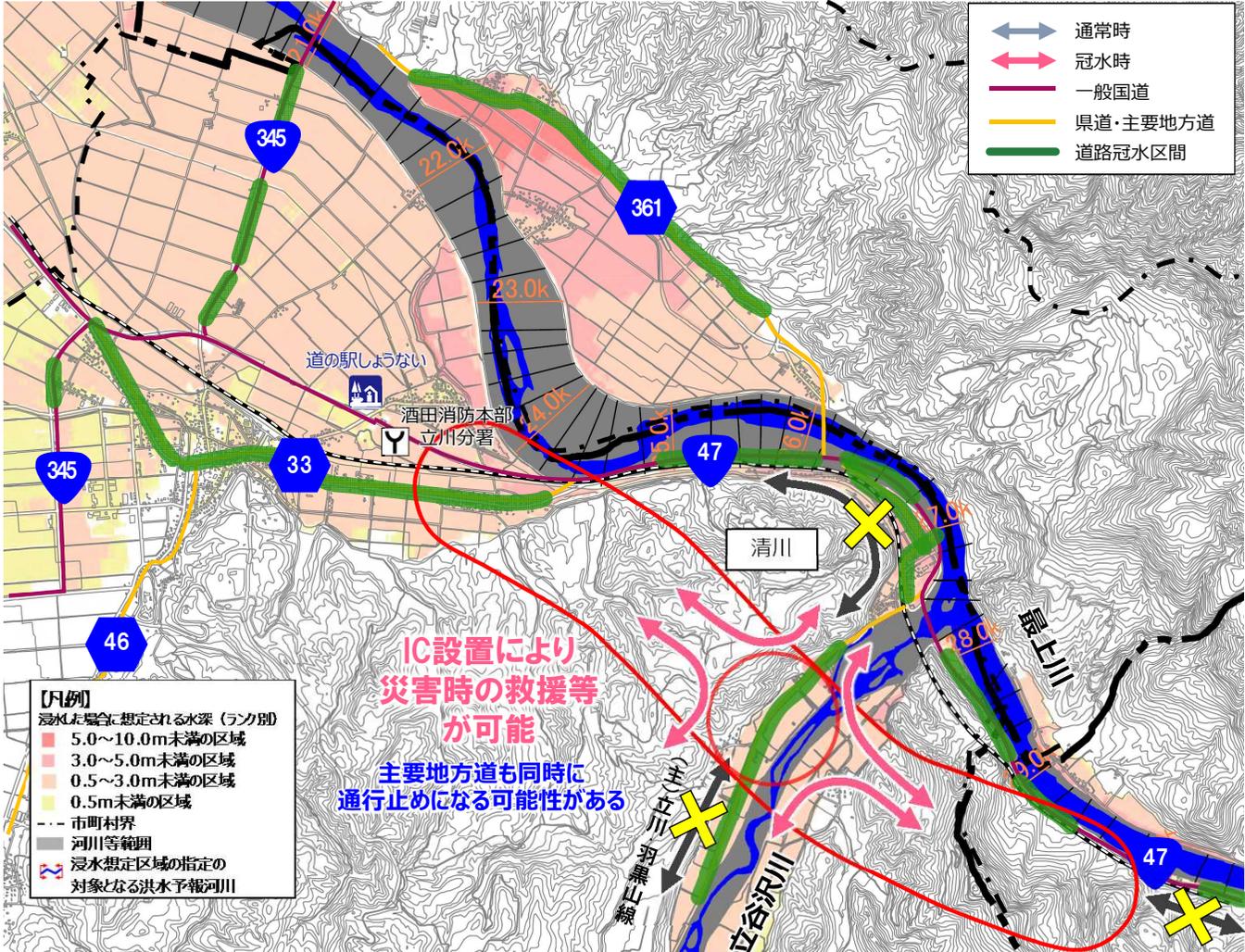
ルート帯案の考え方

- 地域の課題を解決するための政策目標である「安全かつ快適な移動の実現」、「物流の安定的輸送の確保」、「観光振興の支援」、「安定した搬送ルートの確保」に寄与し、対応策として最も優れている**案①バイパス案**とする。
- また、地域防災の視点として、沿道集落へのアクセス性に配慮した計画とする。

3-2. 対応方針(原案)の検討

- ◆ 庄内町清川地区の一部は、最上川及び立谷沢川がはん濫した場合の浸水想定区域に含まれるが、大雨によって国道47号が冠水した場合、主要地方道立川・羽黒山線も同時に冠水し、清川地区が孤立する可能性がある。
- ◆ 中間ICの設置によって、災害時の迅速な救援・復旧活動が可能となる。

【図1】対象区間周辺の道路冠水区間



【地域の声】
 (第2回意見聴取結果より)

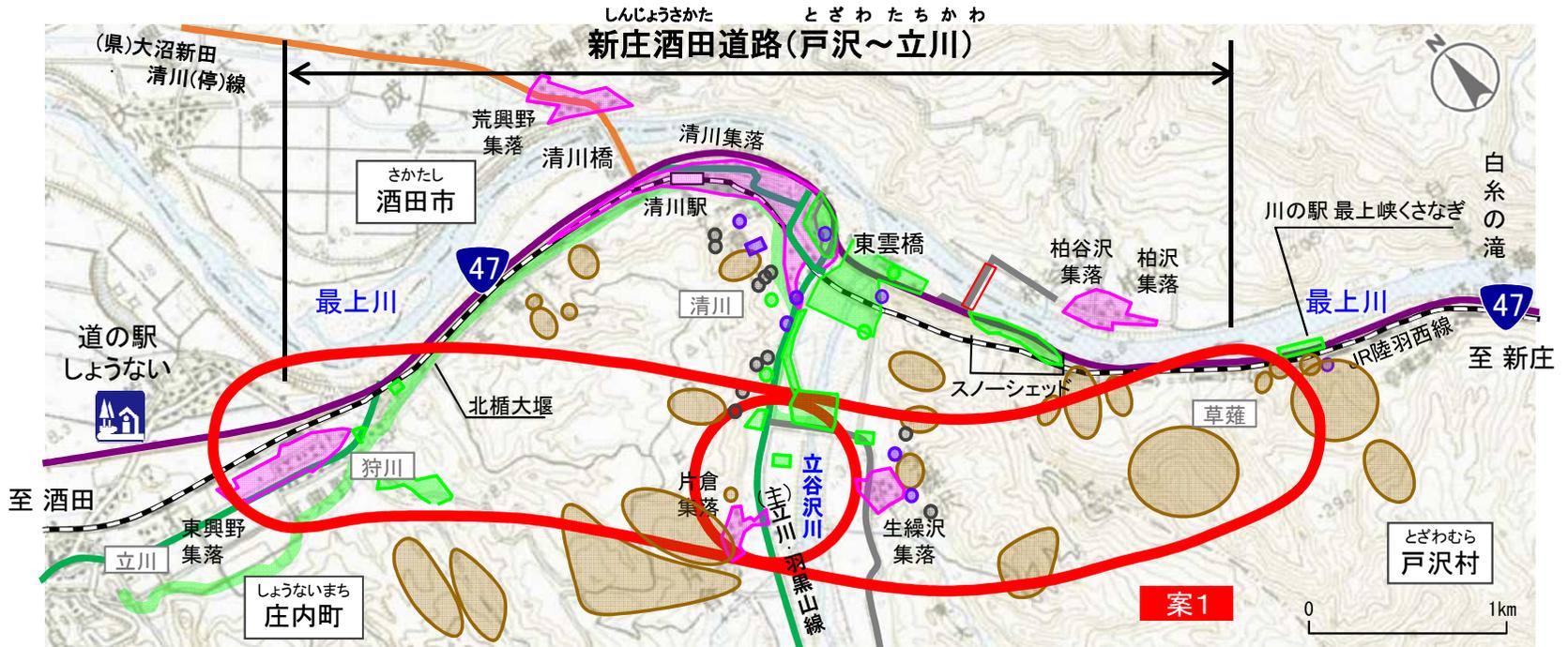
- ・ **国道47号が冠水した場合、清川地域の集落が孤立してしまう可能性**があり、影響が大きい。
- ・ 案①バイパス案となった場合、清川地区に**中間ICがあれば、国道47号が冠水した際も、迅速な救援・救助活動も期待できる。**【自治体】

出典：酒田河川国道事務所HP「最上川下流の浸水想定区域図」を基に作成

◆ 対策案のコントロールポイントとして設定された施設等(集落等)を回避し、物流施設へのアクセスに配慮した上で、概略ルート・構造の検討を進める。

凡例	
	一般国道
	主要地方道
	一般県道
	市町村道
	案1 バイパス案
	接続箇所

凡例	
	集落
	重要施設
	神社、墓地
	砂防堰堤
	地すべり、土石流危険 溪流、急傾斜地危険崩 壊箇所



【写真1】対象区間の土地利用状況

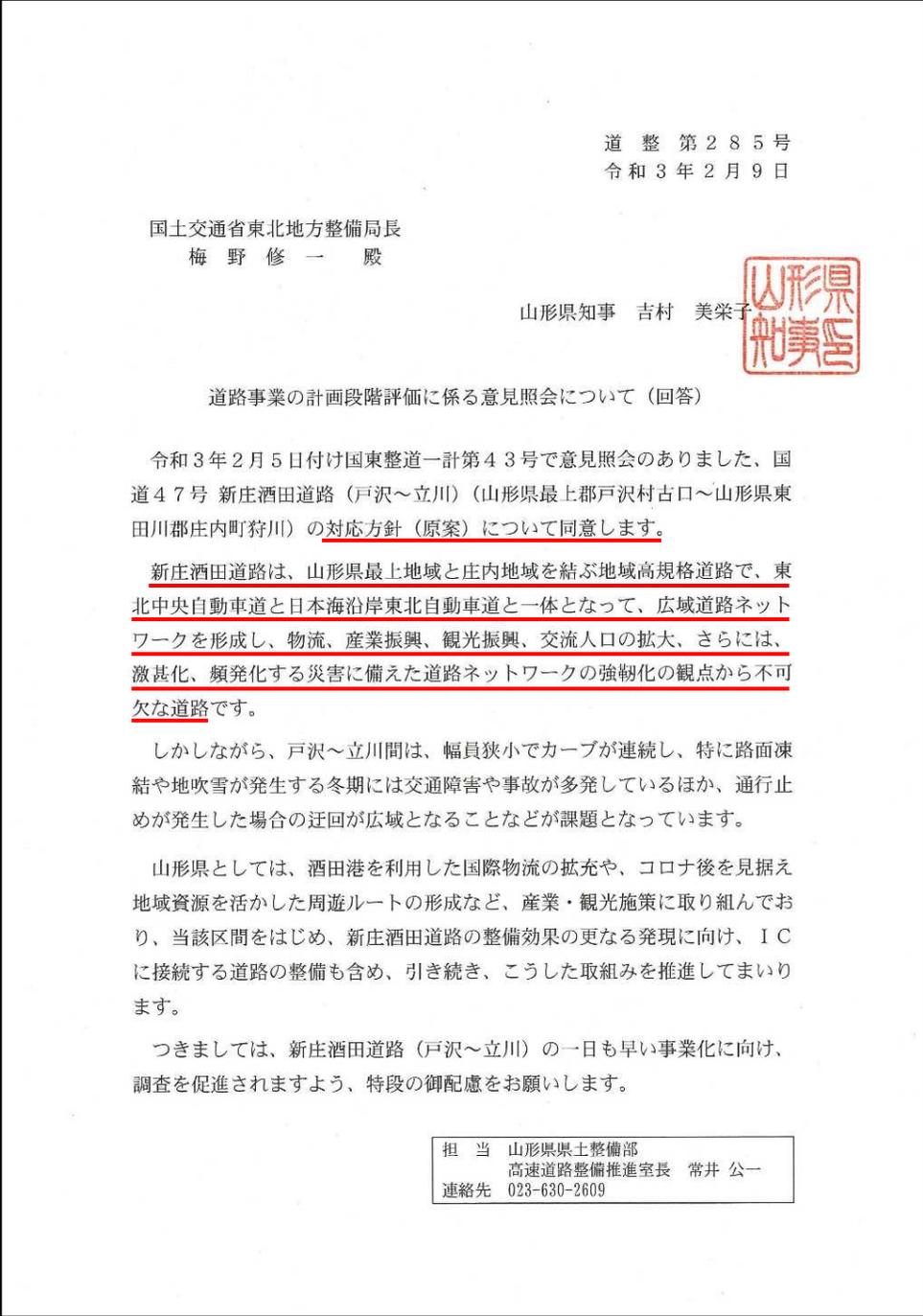


コントロールポイント	施設等
	◆ 集落
	◆ 重要施設
	◆ 神社
	◆ 墓地
	◆ 砂防堰堤
	◆ 地すべり箇所
	◆ 土石流危険溪流箇所
	◆ 急傾斜地危険崩壊箇所

4. 自治体への意見照会結果

■意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
山形県	<p>国道47号新庄酒田道路（戸沢～立川）（山形県最上郡戸沢村古口～山形県東田川郡庄内町狩川）の<u>対応方針（原案）</u>について同意します。</p> <p>戸沢～立川間は、幅員狭小でカーブが連続し、特に路面凍結や地吹雪が発生する冬期には交通障害や事故が多発しているほか、通行止めが発生した場合の迂回が広域となることなどが課題となっています。</p> <p><u>新庄酒田道路は、山形県最上地域と庄内地域を結ぶ地域高規格道路で、東北中央自動車道と日本海沿岸東北自動車道と一体となって、広域道路ネットワークを形成し、物流、産業振興、観光振興、交流人口の拡大、さらには、激甚化、頻発化する災害に備えた道路ネットワークの強靱化の観点から不可欠な道路です。</u></p>



道 整 第 2 8 5 号
令和 3 年 2 月 9 日

国土交通省東北地方整備局長
梅 野 修 一 殿

山形県知事 吉村 美栄子



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

令和3年2月5日付け国東整道一計第43号で意見照会のありました、国道47号 新庄酒田道路（戸沢～立川）（山形県最上郡戸沢村古口～山形県東田川郡庄内町狩川）の対応方針（原案）について同意します。

新庄酒田道路は、山形県最上地域と庄内地域を結ぶ地域高規格道路で、東北中央自動車道と日本海沿岸東北自動車道と一体となって、広域道路ネットワークを形成し、物流、産業振興、観光振興、交流人口の拡大、さらには、激甚化、頻発化する災害に備えた道路ネットワークの強靱化の観点から不可欠な道路です。

しかしながら、戸沢～立川間は、幅員狭小でカーブが連続し、特に路面凍結や地吹雪が発生する冬期には交通障害や事故が多発しているほか、通行止めが発生した場合の迂回が広域となることなどが課題となっています。

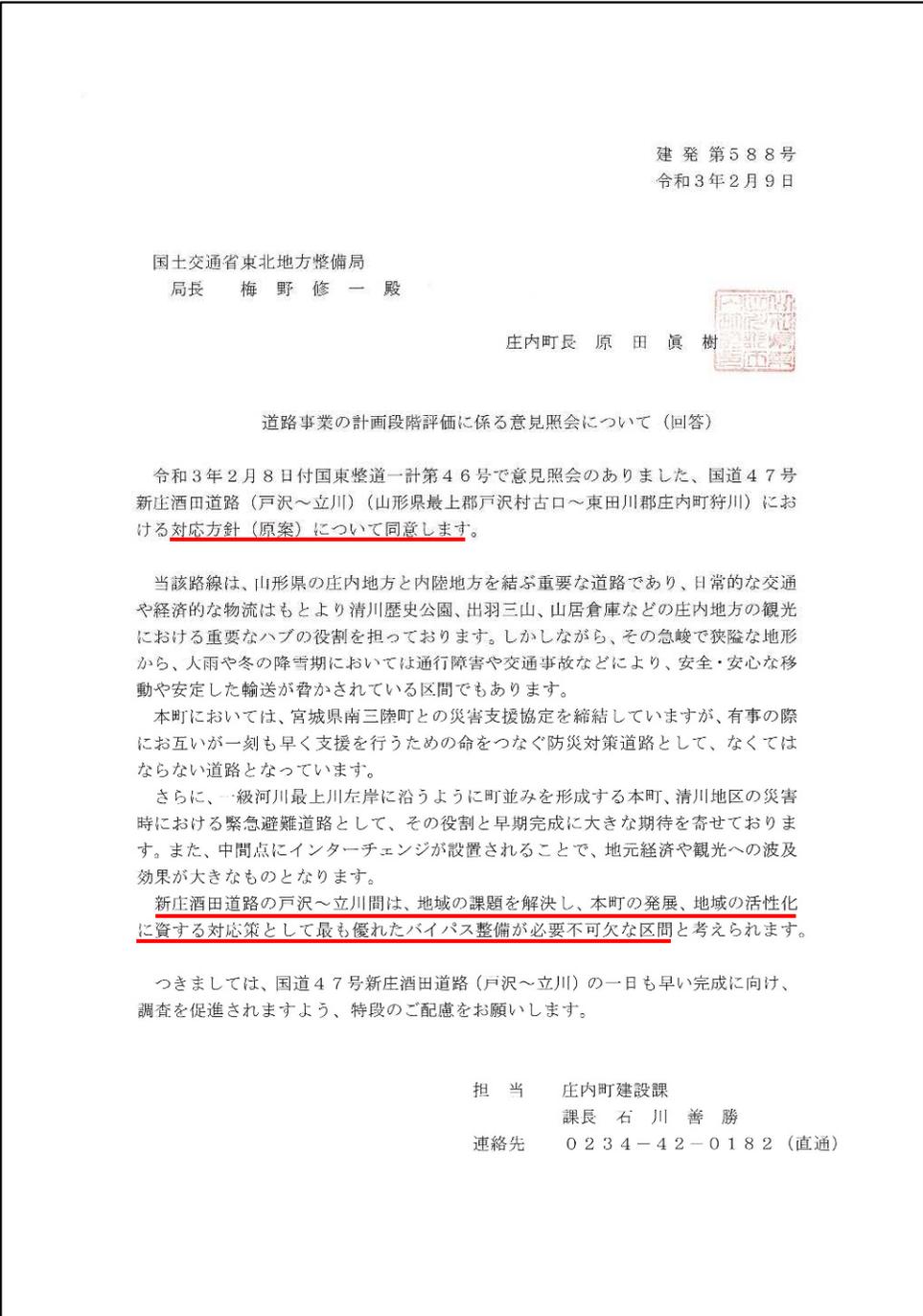
山形県としては、酒田港を利用した国際物流の拡充や、コロナ後を見据え地域資源を活かした周遊ルートの形成など、産業・観光施策に取り組んでおり、当該区間をはじめ、新庄酒田道路の整備効果の更なる発現に向け、ICに接続する道路の整備も含め、引き続き、こうした取組みを推進してまいります。

つきましては、新庄酒田道路（戸沢～立川）の一日も早い事業化に向け、調査を促進されますよう、特段の御配慮をお願いします。

担 当 山形県県土整備部
高速道路整備推進室長 常井 公一
連絡先 023-630-2609

■意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
庄内町	<p>国道47号新庄酒田道路（戸沢～立川）（山形県最上郡戸沢村古口～山形県東田川郡庄内町狩川）における<u>対応方針（原案）</u>について同意します。</p> <p>当該路線は、山形県の庄内地方と内陸地方を結ぶ重要な道路であり、日常的な交通や経済的な物流はもとより清川歴史公園、出羽三山、山居倉庫などの庄内地方の観光における重要なハブの役割を担っております。しかしながら、その急峻で狭隘な地形から、大雨や冬の降雪期においては通行障害や交通事故などにより、安全・安心な移動や安定した輸送が脅かされている区間でもあります。</p> <p>本町においては、宮城県南三陸町との災害支援協定を締結していますが、有事の際に相互が一刻も早く支援を行うための命をつなぐ防災対策道路として、なくてはならない道路となっています。</p> <p>さらに、一級河川最上川左岸に沿うように街並みを形成する本町、清川地区の災害時における緊急避難道路として、その役割と早期完成に大きな期待を寄せております。また、中間点にインターチェンジが設置されることで、地元経済や観光への波及効果が大きなものとなります。</p> <p><u>新庄酒田道路の戸沢～立川間は、地域の課題を解決し、本町の発展、地域の活性化に資する対応策として最も優れたバイパス整備が必要不可欠な区間と考えられます。</u></p>



■意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
戸沢村	<p>国道47号新庄酒田道路（戸沢～立川）（山形県最上郡戸沢村古口～山形県東田川郡庄内町狩川）における<u>対応方針（原案）</u>について同意します。</p> <p>国道47号は、日本海側と太平洋を結び、物流・交流等産業振興は基より災害時の物資輸送ルートにも機能する重要路線であります。さらに、移動時間の短縮による生産性向上効果を最大限に高めるには、<u>地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備が不可欠となり、一部余目酒田道路をはじめとする区間が開通しているものの「戸沢～立川」間は、最上川沿いの急峻で狭隘な地形と合わせ清川ダシ（風）による寒冷・豪雪の影響を受け冬期間は路面状況の悪化から速度低下や速度障害などが発生しており、早期事業化は当地域の重要課題であります。</u></p> <p>当該道路は観光振興にも密接に影響し、最上川舟下りへの観光ルートの一部として、<u>安全な移動や移動時間短縮により集客へ大きく寄与するものです。</u></p> <p>また、村内の一部地区では生活圏が庄内にあるため庄内地域の病院への通院や緊急搬送等、生命にも関わる道路であり、かつ庄内地域の通学や通勤移動による庄内と最上の交流を担う道路となります。</p> <p><u>地域圏域の広域化が地域力向上に左右される中、現状の高規格道路整備の立ち遅れが、そのまま地域づくりやまちづくりが遅れる原因にもあり、こうした事から「新庄酒田道路（戸沢～立川）」は沿線地域の発展や安心安全な地域づくりにとって、早期に整備すべき重要な路線であります。</u></p>

戸建水発第316号
令和3年2月9日

国土交通省 東北地方整備局
局長 梅野 修一 殿

戸沢村長 渡部 秀勝 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

令和3年2月8日付け、国東整道一計第46号で意見照会のありました国道47号新庄酒田道路（戸沢～立川）（山形県最上郡戸沢村古口～東田川郡庄内町狩川）における対応方針（原案）について同意します。

国道47号は、日本海側と太平洋を結び、物流・交流等産業振興は基より災害時の物資輸送ルートにも機能する重要路線であります。さらに、移動時間の短縮による生産性向上効果を最大限に高めるには、地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備が不可欠となり、一部余目酒田道路をはじめとする区間が開通しているものの「戸沢～立川」間は、最上川沿いの急峻で狭隘な地形と合わせ清川ダシ（風）による寒冷・豪雪の影響を受け冬期間は路面状況の悪化から速度低下や速度障害などが発生しており、早期事業化は当地域の重要課題であります。

当該道路は観光振興にも密接に影響し、最上川舟下りへの観光ルートの一部として、安全な移動や移動時間短縮により集客へ大きく寄与するものです。

また、村内の一部地区では生活圏が庄内にあるため庄内地域の病院への通院や緊急搬送等、生命にも関わる道路であり、かつ庄内地域の通学や通勤移動による庄内と最上の交流を担う道路となります。

地域圏域の広域化が地域力向上に左右される中、現状の高規格道路整備の立ち遅れが、そのまま地域づくりやまちづくりが遅れる原因にもあり、こうした事から「新庄酒田道路（戸沢～立川）」は沿線地域の発展や安心安全な地域づくりにとって、早期に整備すべき重要な路線であります。

つきましては、「新庄酒田道路」（戸沢～立川）の一日も早い完成に向け、調査を促進されますよう、特段の御配慮をお願いします。

担当 戸沢村建設水道課
課長 西田 剛
電話 0233-72-2547（課直）

5. 対応方針(案)のまとめ

5-1. 対応方針(案)

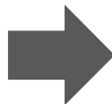
1. 道路整備の必要性

【理由】

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- 安全かつ快適な移動の実現
- 物流の安定的輸送の確保
- 観光振興の支援
- 安定した搬送ルートの確保



【地域の意見聴取結果】

国道47号の課題	○道路利用者の意見から、「走行安全性・快適性の低下」、「不安定な物流ネットワーク」、「周遊観光の連絡性が不十分」、「患者の安静かつ迅速な搬送に支障」などの課題を整理。
道路整備の必要性	○住民や企業など、回答いただいた道路利用者の多くが、道路整備の必要性を感じている。
ルート検討において重視すべき事項	○地域が感じているルート検討において重視すべき項目は「事故多発箇所の回避」、「冬期の快適な移動」、「通行止め時の代替機能」、「庄内～最上間の時間短縮」が多い。
自治体の意見	○山形県・庄内町・戸沢村から、案に賛成すると共に、早期事業化を要望する意見をいただいている。

2. 対応方針 (案)

◆計画及びルート帯案

地域の課題を解決するための政策目標に寄与し、対応策として最も優れている【案①】バイパス案とする。

【理由】

- 地域の課題を解決するための政策目標(「安全かつ快適な移動の実現」、「物流の安定的輸送の確保」、「観光振興の支援」、「安定した搬送ルートの確保」)を達成。
- 地域の意見聴取結果で得られた地域のニーズに応えられる。
- 経済性の面でも優れている。

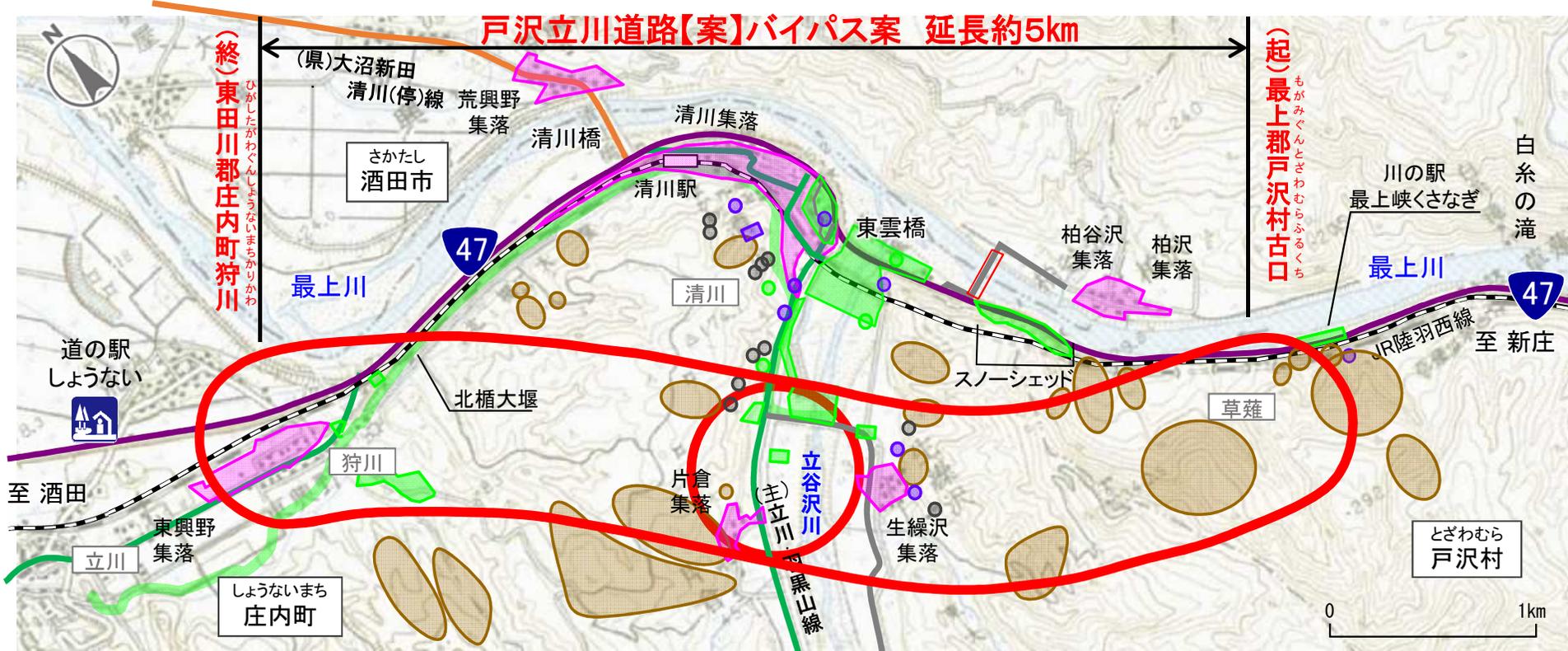
◆インターチェンジ位置については、地域のニーズ、災害時の利用に配慮する。

5-2. 対応方針(案)まとめ

- ◆ 計画及びルート帯案については、「安全かつ快適な移動の実現」、「物流の安定的輸送の確保」、「観光振興の支援」、「安定した搬送ルートの確保」に寄与するバイパス案とする。
- ◆ インターチェンジの位置については、地域のニーズ、災害時の利用に配慮した配置案とする。

凡例	
	一般国道
	主要地方道
	一般県道
	市町村道
	案1 バイパス案
	接続箇所

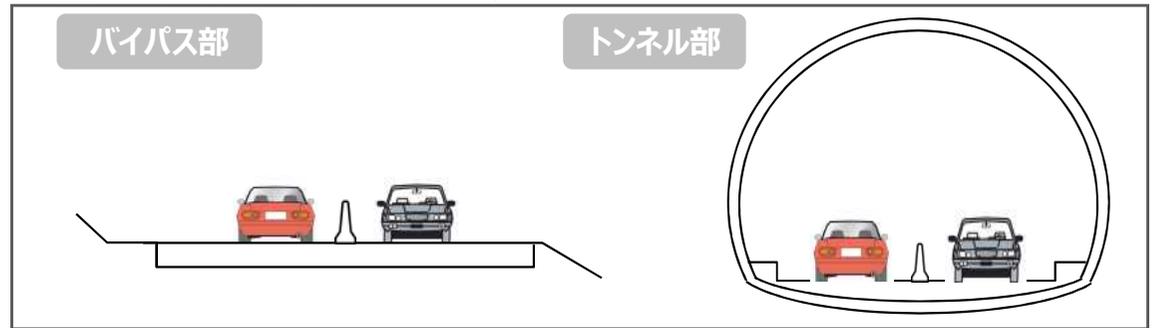
凡例	
	集落
	重要施設
	神社、墓地
	砂防堰堤
	地すべり、土石流危険渓流、急傾斜地危険崩壊箇所



計画諸元

<区 間>	(起点) 山形県最上郡戸沢村古口 (終点) 山形県東田川郡庄内町狩川
<延 長>	約5.0km
<構造規格等>	自動車専用道路 V=80km/h

主たる構造 (イメージ)



【参考】第2回アンケート回収状況

- ◆ 地域住民アンケートの回収状況を市町村別で見ると、戸沢村の回答率が34%と最も高い。
- ◆ その他3市町の回答率は、20～25%となっている。

【表1】アンケート調査票の回収状況

市町村	郵送配布			【参考】回収数			
	配布戸数 (世帯)	回答世帯数 (世帯) ※1	回答率 (%) ※2	郵送配布※3	留置き	WEB	計
庄内町	6,885	1,712	25%	2,849	115	200	3,164
戸沢村	1,413	481	34%	809	142	26	977
酒田市	6,403	1,307	20%	2,070	194	256	2,520
新庄市	3,330	718	22%	1,169	135	78	1,382
その他山形県	—	—	—	46	143	70	259
山形県外	—	—	—	4	1	14	19
不明・無回答	—	67	—	27	25	0	52
合計	18,031	4,285	23.8%	6,973	755	645	8,373

※1:住民アンケートの配布は、1世帯当たり回答ハガキを2枚同封。返信があった世帯数をカウント。
 ※2:世帯別の回答率。回答世帯数÷配布戸数で算出。
 ※3:1枚目、2枚目を合計した、すべての回収ハガキ枚数。